

# 台湾「民進党」で進む 親日「李登輝」外しのウラ

〈李登輝元総統が総統選で影響力を及ぼすことは絶対に許さない〉(李元総統の意見は考慮しない)

蔡英文氏(59)率いる台湾・民進党の内部文書に躍るのは、同党選挙戦略対策会議の激烈な決議の文字。

蜜月はいまや遠く(左:蔡英文氏、右:李登輝氏)



来年1月16日に迫る台湾総統選。前回選挙で蔡氏は初の女性総統誕生かと目されながら惜敗。だが今回は勝利が確実視される中、今月6日に来日――。

中国との融和ムードの中、親中の国民党・馬英九氏(65)が再選を果たしま

した。しかし馬政権は昨年12年の選挙で、投票前日、大腸ガンの手術から間もない李氏が蔡氏の求めに応えて蔡陣営に駆けつけ、感動的な応援演説を行ったのは語り草だ。なぜその「恩人」を民進党は排除するのか。

「蔡氏個人の意向は別として、中国とも日本ともバランスを取ろうとする今の民進党の主流派からすると、李氏はあまりに『親日』に映るのかもしれない」とは、ある台湾の政治ウ

オッチャー。〈蔡英文は、これまで35%前後の支持率を安定して維持してきた〉(劇的な事件でも起きないかぎり、16年の総統選に当選するのは蔡英文と見てほぼ間違いなく、米国も中国もすでに民進党が政権を握る心の準備をしていると思われる)

「確かに李氏は日本統治下の台湾で生まれ、京大に進学。太平洋戦争当時、自分は(紛れもなく『日本人』として、祖国のために戦った」と雑誌で発言し、台湾では物議を醸しました。が、台湾のためなら、もういつ死んでも構わない」とも公言し、今も日本の政財界にたいパイプを持つ李氏を排除すれば、日台関係はどうなってしまうのか

5月末からの訪米ではワシントンから異例の歓待を受け、6月には『タイム』誌アジア版の表紙を飾るなど、国際的な注目も集める蔡氏と、台湾民主化の父、李登輝氏との縁は深い。

「親日国」の進路に警戒の目が必要だ。

## プーチン「シリア空爆」 陰の主役は「原油安」

シリアの混沌とした状況に油を注ぐようなロシアの空爆である。

それも、米・オバマ大統領が国連総会演説で空爆開始を牽制した2日後。

ヨーロッパへの難民流入問題の元凶、いまやシリアの50%以上を掌握している「イスラム国」を叩くのが目的というが、

「シリアのアサド政権支援が本音でしょう。シリアはロシアにとって、唯一の海外基地を置く貴重な軍事同盟国。諜報網を含めた軍事的な資産を死守したい。ただ、反アサド勢力を支援してきた欧米諸国は困惑しています」(国際記者)

反体制派がロシアの攻撃



を受ければ、ロシアと欧米の代理戦争が引き起こされかねない。実際、ロシアに攻撃された中には反体制派も含まれていたとし、オバマ大統領はロシアの空爆を「危険な選択で受け入れられない」と強く非難した。

「ウクライナ問題で経済制裁にあえぐロシアは国際的な注目をウクライナから逸らしたい。それに加えて」とは、在欧の東欧問題専門家。

「原油安に追い詰められた国内経済の深刻さも理由の一つでしょう。原油価格はこの1年で半値以下となり、今回派兵された兵士たちの手当も信用のあるドル建てとすることで志願者を募る始末。強いロシアを見せつけて求心力を高め、あわよくば原油高騰で経済を立て直したいという狙いもプーチンにはあるのでは」

そんな理由で戦火を拡大すれば、難民がさらに生み出されるばかりではないか。よその国を空爆してる場合か